

SORA

web magazine 2014.nov. vol.46

INDONESIA BALI

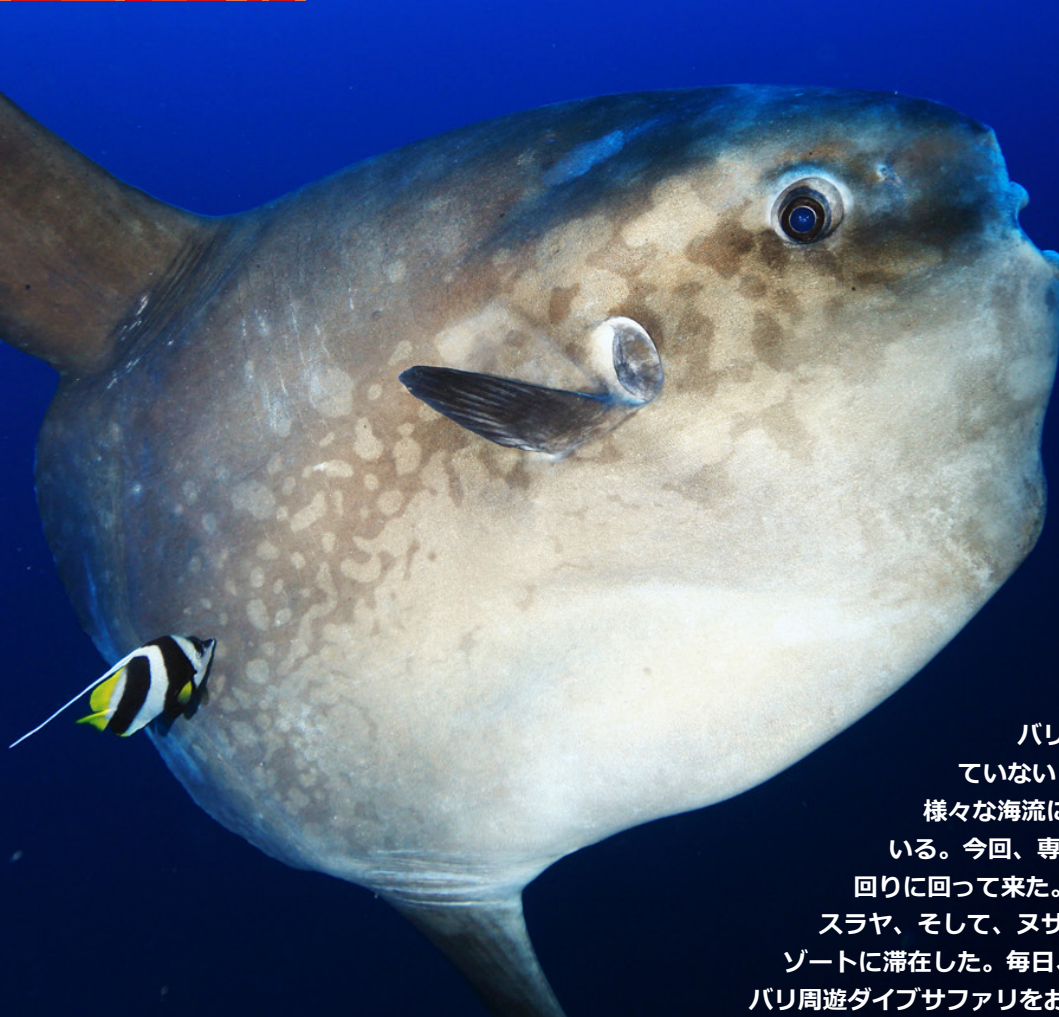
MAP
CLICK!

Travel

魅力満載!!

バリ周遊 ダイブサファリ

Photo & Text : Yasuaki Kagii



バリ島のダイビングって、知っているようで、知られていない？ バリ島の1周は、約500キロ。その周囲には、様々な海流に影響された特徴あるダイビングエリアが点在している。今回、専用車に乗り込み、ダイブサファリとして、島を右回りに回って来た。シークレットベイ、ムンジャンガン、トランベン、スラヤ、そして、ヌサベニダを潜り、宿泊はそのエリアに近い素敵なりゾートに滞在した。毎日、違うエリアで潜り、バリの魅力を一挙に味わう。バリ周遊ダイブサファリをお試しあれ～！

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2014
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



へんてこちゃんの集まる海は、
へんてこな海底風景が広がっていた

シークレットベイの住人

今回の旅、ダイブサファリの始まりは、シークレットベイから。シークレットベイは、バリのダイビングのパイオニアの殿塚さんが見つけたポイント。湾内に砂地が広がるバリの中でも特徴的なポイントで、限られたエリアだが、約250種類もの生物が確認されている。今回も、バンガイカーディナルフィッシュ、ボンボリカエルアンコウ、ニシキフウライウオ、オオモンカエルアンコウ、イッポンテグリ、ヘコアユなどなど個性豊かな生き物が次々と見られた。バンガイカーディナルフィッシュは、口内保育をする珍しい生態のお魚で、卵を頬張っている様子は観察したことがあったが、今回は、稚魚を頬張っている様子を撮影することができた。オスの口の中に見える稚魚の視線が少し怖かった…(笑)。エスカの大きなボンボリカエルアンコウなどもシークレットベイではあまり知られていないお魚。ポートポイントでは、お昼から大胆にお散歩するピクチャードラゴネットもたくさん見ることができる。そして、今回最も驚いたのが、海底いっぱいに海藻が繁茂していたこと。乾季の始まる5月頃から、10月頃まで海底は緑いっぱいになり、雨期の水温が下がる頃にはなくなるそうだ。浅瀬に繁茂していた背の高いアマモも、まるで森のようで面白かった。今回は、この期間限定の森で、生き物ウォッチング&撮影を楽しんだ。シークレットベイは他のエリアよりも水温の変化が大きく、平均水温は25℃くらいで、上がれば27℃くらい。閉鎖された空間だが、時には冷たい潮が入ってくるので、23℃くらいまで下がることもある。





豊かなサンゴ礁が広がる
正統派の海・ムンジャンガン





INDONESIA インドネシア・バリ Travel **BALI**



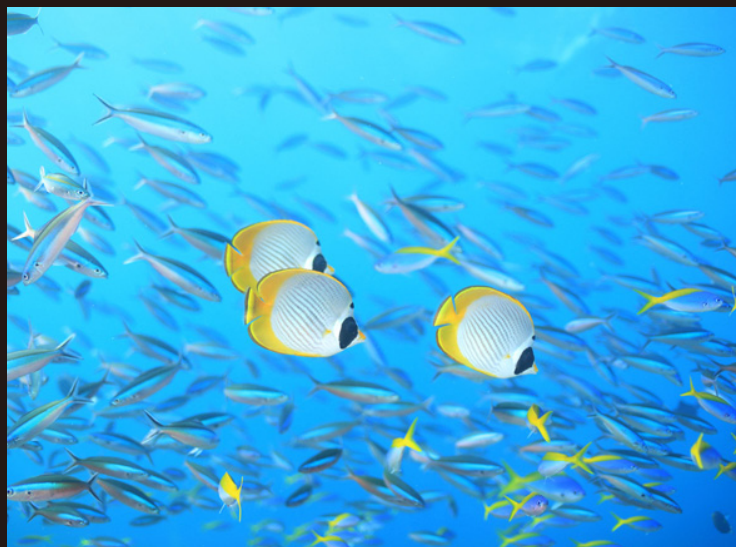
前日、ムンジャンガンの海に潜ることを考えていると、どこか心が軽くなる。シークレットベイのような個性の強い海ではない、どちらかというところでは正統派の海といった感じ。そして、世界中からダイバーがやって来る海なんだけど、まだ手つかずのような新鮮さがある。豊かなサンゴ礁が広がり、群れやカメ、バラクーダのような大物、そして、可愛いマクロの生き物も目白押し。地形もドロップオフや砂地もある。ダイバーになって海を知る前に想像していた海…、それがムンジャンガンの海かな…(とっても私的だけど)。サンゴのフォーメーションも素晴らしいと思う。他の海では見られないような種類が混在し、よく見るとそこが個性になっている。インサイドというポイントは、リュウキュウイソバナがたくさん生えていて、そこにキンギョハナダイが群れている。少し箱庭的な美しさがある。島周りをぐるっと潜ることが出来て、まだほんの一部しか潜っていないけど、リラックスした時にぴったりと来る海だと思う。またランと言う大陸側のポイントには、レッドブローチピグミーゴビーやイエローアイコームツウスブレニーなど、マクロの生き物の個性がキラリと光っている。また汽水域のポイントもあり、ハゴロモハゼなどもいる。かつて、お魚の図鑑を出す学者さんが、「視界に入るお魚の数が2番目に多かった海」とムンジャンガンの海を形容していた。潜っても潜りたりない海かも知れない。



トランベン名物～!

トランベンでのダイビングをするために、ポイントが並ぶ海岸線に向かう。車を止めハッチバックを開けると、すぐに地元の女性陣がやって来て、軽々と頭の上にタンクを載せては、スタスタと歩いていく。中には、2本も載つける女性もいて、まず、そのスタイルに驚かされる。女性たちは、足場の悪いゴロタもすいすいと歩いていく。体幹トレーニング…、なんて言葉が浮かぶ。この逞しい女性たちには、担当のダイビングセンターのスタッフがチップを払うことになっている。もし直接払うならば、いくら支払えばいいのか…、なんて、難題を抱えることだった…。





バリの一番有名なポイントは、きっとトランベン！

トランベンはバリ島で唯一の黒砂のポイントで、まず有名なのは、「沈船」。ビーチからエントリーして、楽しめる沈船ポイントだけに、人気も高い。沈船には、ソフトコーラルやヤギ、ホヤなどの腔腸類が驚くほど群棲している。壁だけを見ても、とてもカラフルなので十分に楽しむことができるが、そこにハゼやウミウシなどのマクロの生き物が隠れているので、カラフルな写真撮影も気軽に楽しめる。周囲に広がる黒い砂地は、同種であっても白い砂地とは体色が違うお魚がたくさん見つかる。また、今回もクマドリカエルアンコウを新発見するなど、ガイドさんは、「潜るたびに発見があるので、すごく良いポイントだ」と話してくれた。

今は、名物だったギンガメアジの群れがいなくなっているみたいだが、また帰って来てくれることを望むばかりだ。左端に位置する「ドロップオフ」は、浅瀬にオックスアイスカッドの群れや壁沿いを進んで行くと、ツースポットバスレット、カエルアンコウ各種、クダゴンベやスミレナガハナダイ、ウミウシ各種など人気種に会える。また、「パラダイス前」は、クリーナーシュリンプやスザクサラサエビが待つクリーニングステーションがあり、アザハタなどが集まっている。また浅瀬には、クラカケチョウチョウウオとムスジコショウダイが群れる場所もあり、ワイドの見所が満載。



スラヤ…、バリの中でも
個人的に今一番、
潜り続けたいポイント

INDONESIA
インドネシア・バリ
Travel BALI





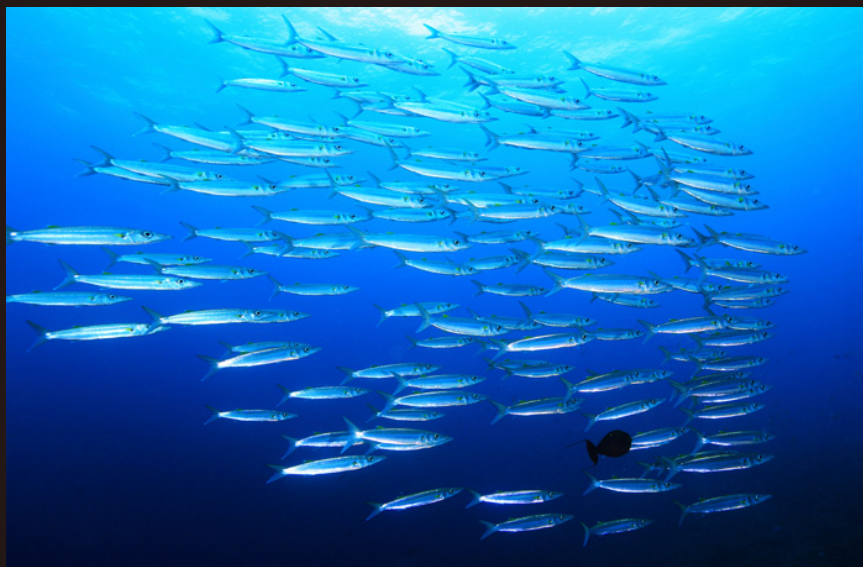
INDONESIA インドネシア・バリ Travel **BALI**

トランベンエリアの中に位置するスラヤ。トランベンに隣接するが、海岸線の砂利が一回り小ぶりになっているので、エントリーしやすいポイント。右側に進み、水深30mぐらいに行くと、白いガヤが海底一面に群棲している場所がある。そこにはスリバチカイメンがあり、周囲にはタテジマキンチャクダイの成魚と幼魚をよく見かける。そのエリアは、世界のどの海にもない雰囲気があり、実は大変興味深い。海の底ににいるのだけど、どこかお魚たちの国に迷い込んだ感じがする。水深が深いので滞在できる時間が短く、限られた時間での味わいだから、より遠い国のように思うのかも知れない。また途中には、青いホヤがたくさんあって、そこにメニーホストゴビーが産卵していたりする。ホヤの青が青い海に溶けてとても美しい。そして、エリアを真っ直ぐ潜降していくと、また違う白いガヤの群棲に辿り着く。そこにカイメンがあり、ここもクリーナーシュリンプが待つクリーニングステーションになって、アザハタなどが掃除されにやってくる。水深を上げていくと、フリソデエビやキンチャクガニなどがいて、楽しみが尽きないポイントでもある。トランベンのメインの場所から少し離れた所にあり、ダイバーがあまりまだ入っていないので、ホヤやソフトコーラルが手付かずに残っているので、フォト派ダイバーにも超お勧め！あ〜また潜りたい…。



来た～！ ゴウシュウマンボウ～！

バリ周遊ダイブサファリの最終日は、ヌサペニダ島のクリスタルベイでマンボウ狙いのダイビング。ガイドさんがドロップオフを降りて行き、水深30mくらいを偵察。少しするとライトを回して降りて来て！とのサインを確認。すぐに潜降すると、ブルーの海の先の中層に大きなマンボウが浮いていた。ハタタテダイとタデジマキンチャクダイにクリーニングされている。大きさは2mくらい。顔だけのお魚がゆっくりと漂っている。少しずつ接近しながら撮影していると、もう1匹頭上に現れた。なんて贅沢な時間なのだろう。マンボウには、マンボウ、ヤリマンボウなど5種類ほどあり、ここで見られるのは、ゴウシュウマンボウということだ。マンボウが見られるシーズンは限定されていて、一般的に7月後半から10月前半。是非、タイミングを合わせて出会って欲しい。また、クリスタルベイは、マンボウだけでなく、魚影も濃い。豊かなサンゴの上にキンギョハナダイが舞い、そこにタデジマキンチャクダイやツノダシが絡んでくる。そして、通年マンタが見られるポイントがあるので、1日でマンボウ＆マンタだって夢ではないのだ！



バリ周遊ダイブサファリの魅力は、1周約500kmのバリの海岸線に点在する各有名ポイントを潜り巡れること。シークレットベイ、ムンジャンガン、トランベン、スラヤ、ヌサペニダなど。各ポイントまでは車移動で、バンに乗り込み、周囲の景色を見ながらゆったり移動。空港～シークレットベイ3時間半、

空港～ムンジャンガン4時間、ムンジャンガン～トランベン3時間、空港～トランベン2時間半などなど、移動時間はこのような感じだ。そして、各エリアでは、素敵なリゾートに宿泊する。毎日、違う楽しみが連続している。



シークレットベイ&ムンジャンガン・エリア Aneka Bagus Hotel

ブウムトラム村の東に位置する、フランス人のダイバーがよく活用するリゾート。コテージタイプのビラとスタンダードルーム、2つのカテゴリがある。海に面したプールでは、素朴なバリの田舎リゾートを味わうことができる。従業員の純朴な笑顔にも癒される。広い客室は荷物が多いダイバーに便利。



トランベン&スラヤ・エリア Mimpi Resort Tulamben

アグン山のふもとに位置するMimpi Resort Tulamben。歴史のあるリゾートだが、トランベンにあるリゾートのカテゴリの中でもハイランクに位置する。リゾートには13室のパティオルーム、12棟のデラックスコテージの他、4棟のオーシャンビューコテージがあり、屋外スイミングプール、レストランも併設されている。目の前がダイビングポイントなので、ダイバーにとって使い勝手がとても良い。



ヌサペニダ、トランベン&スラヤ・エリア Alam Asmara Dive Resort

チャンディダサにある客室12部屋の小さなダイブリゾート。幹線道路から中に入った海岸線にあり、喧騒を離れ、波の音だけが届く。敷地内は緑で溢れる。コテージは伝統的なバリ様式にモダンをミックスしたデザインで、冷蔵庫、ミニバー、エアコン、天蓋付のベッド、屋外のバスシャワー、トイレ付き。ランデブーという名のレストランは、他のリゾートのゲストも来るほどの人気レストラン。コンセプトは地産地消。この地で採れたものでお料理を提供する。レストランからはヌサペニダ、ミンパン、テベコンやロンボク島を望むことができる。YOSダイブバリを併設。メインガイドはティカ。



今回のバリ島ダイブサファリでお世話になった<YOSダイブ>

バリ島で25年の歴史ある老舗のダイビングセンター。バリ島内3つの拠点を持つ。ヌサドゥアに本店。チャンディダサとムンジャンガンに支店がある。そのため、本店と支店を利用して、潤滑の良いダイブサファリを催行することができる。ダイブスタイルは、安全を重視し2名のゲストに1ガイドが同行する。個性的な各海に精通したガイドが海を案内してくれる。ダイビングサファリのプロデューサーである日本人のTara 吉田さんがいるので、言葉に心配もない。